

2021年12月7日

第117回定期演奏会の曲目紹介

第87代学生指揮者 和田島 幸星

『2022年2月20日(日)、我々同志社グリークラブは「第117回同志社グリークラブ定期演奏会」を開催致します。

この度の演奏会は全4ステージ構成となっており、この1年間温め続けてきた曲達を披露する、まさに集大成の演奏会となっております。また、それぞれのステージが違った言語となっているため、一度に様々な言語に触れ、その地ならではの音楽を味わっていただければと思います。

第一ステージでは『トルミス合唱曲集』と題し、エストニアの作曲家 Veljo Tormis によるアカペラ曲4曲をお送りいたします。その内、ステージ最後を飾るのは2021年に行われた第76回関西合唱コンクールにて取り組んだ「大波の魔術」です。コンクールの際よりも更にグレードアップしてお届けしたいと思いますので、どうぞ楽しみにお待ちください。

第二ステージでは多田武彦作曲の男声合唱組曲「中勘助の詩から」全7曲をお送り致します。中でも聞き所は男声が可愛い四十雀の鳴き声を表現するシーンや、魚を売るふり売りが実際にソロとしてお客を呼び込む掛け声が入っているところです。またラストを飾る「追い羽根」は曲のほとんどがソロであり、合唱はハミングで物語の急展開を作り出していきます。一曲一曲にそれぞれの物語があり、その世界観を是非味わっていただければと思います。

第三ステージでは黒人霊歌曲集を披露致します。男声合唱の定番曲として愛されてきた曲から、同志社グリークラブが何十年も以前に演奏してきた曲目を再編という形で5曲にまとめてお送り致します。圧倒する程の力強さや優しさに満ちた音色といった、男声合唱だからこそ奏でられるこの対照的な音楽表現を是非とも堪能していただければと思います。

終曲を飾るのは『男声合唱とピアノのためのジプシーの歌 (Zigeunermelodien op. 55)』です。「ジプシーの歌」は、作詞者であるアドルフ・ハイドゥークの叙情詩をドイツ語に訳した詩が用いられており、作曲者であるアントニン・ドヴォルザークと福永陽一郎の編曲によって、スケール豊かで劇的な詩世界が描かれている作品となっております。この世界観を最大限に表現できるよう、ピアノと歌が一体となり、情熱的な演奏をお届け出来ればと思います。

以上がこの度の演奏会の概要となります。

昨年度と同様、遠方の方でも楽しんで頂けるよう会場チケットと合わせ Live 配信によるオンラインチケットもご用意しております。どちらのチケットも既に販売開始しておりますので、是非お買い求め下さいませ。』